

《株式会社エフエム東京 第393回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 24 年 11 月 13 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数 7 名(社外 7 名 社内 0 名)

◇出席委員(4名)

青 池 慎 一 委員長 横 森 美 奈 子 副委員長
渡 辺 貞 夫 委員 西 田 善 太 委員

◇欠席委員(3名)

香 山 リ カ 委員 内 館 牧 子 委員
秋 元 康 委員

◇社側出席者(10 名)

富木田 代表取締役社長
唐 島 専務取締役
黒 坂 常務取締役 編成制作局長
石 井 常務取締役
平 取締役営業局長
藤 取締役マルチメディア放送事業本部長
長 澤 常勤監査役
延 江 編成制作局ゼネラルプロデューサー
森 田 編成制作局局次長 兼 編成制作部長
松任谷 編成制作局 編成制作部プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(0 名)

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 20分)

『ジャパモン～JPN47～』

毎週日曜 13:00～13:55

《議事内容》

議題1:最近の活動について

◎FM フェスティバル 2012 未来授業～明日の日本人たちへ～ 知の巨人と大学生が向き合う公開収録を開催

今年で3回目を数えるFMフェスティバル「未来授業～明日の日本人たちへ」。
今年、「世界の中のニッポン、自らの立ち位置の確認」を大テーマに置き、東京、京都、熊本の3地域で公開授業を開催。総勢5名の講師陣と、370名を超える大学生が参加しました。

▼10月29日(月) 京都会場 講師:福岡伸一氏 (分子生物学者)

テーマ:「あなたはご本人さまでいらっしゃいますか？」

「自分が日本人ということはどうやって証明しますか？」という質問から討論をスタートし、体を組織する細胞は次々に入れ替わり、明日や今日と同じ自分ではないという「動的平衡」の概念をかみくだいて説明しました。

常に変化していることを認識することで、柔軟に生きていくことができ、世界の人種問題、国家の領土問題も相対化して考えることができると教授しました。

会場の京都大学は福岡氏の母校でもあり、ノーベル賞受賞の山中教授も所属していることで、学生の意識が非常に高く、同志社大、立命館大からも総勢111名の学生が集まり、活発な議論が行われました。

▼10月31日(水)熊本会場 講師:小山薫堂氏(脚本家、構成作家)

テーマ:「くまモンから学ぶニッポンの立ち位置」

「くまモン」の生みの親である小山氏からのメッセージは、「今の日本には、あらためて『和』が必要とされているのではないか」というもの。彼の言う「和」とは、和風という意味ではなく、和む＝柔軟性、和える＝ミックスという意味。「くまモン」は著作権フリーであることによって、多くの伝統工芸とコラボレーションし、その存在感で和ませながら、今まで眠っていたいろいろなものに新しいスポットライトを当てている、という意味で「和」と表現した。日本の立ち位置もそこにあり、この「和」の精神をもって、未来の問題解決に当たってほしいと、学生達に伝える熱い授業となりました。

▼11月2日(金)東京会場

1)講師:養老孟司氏(解剖学者) テーマ:「未来を変える選択」

養老氏が参加学生たちへ実施した事前アンケートの中の質問は、「あなたはどんな時に幸せを感じますか？」。

それに対してほとんどの学生が、家族や友人との人間関係を挙げたことに着目。これ

は、逆にいうと、人のせいで不幸せにもなる、ということであると指摘しました。世の中の全てが人間関係で占められてしまうと、逃げ場がなくなり、その典型がイジメ問題である。そこで、養老氏は現代人に圧倒的に不足しているものは、“花鳥風月”、つまり自然であると指摘。グローバル化が進む世界の中で生きていくヒントは、日本人が古来から持っていた日本固有の自然観とともにある生活にある、と未来志向のポジティブなメッセージを伝えました。

2)講師:北川智子氏(歴史学者)

テーマ:「中世日本史から読み解く日本の現在と未来」

ハーバード大学での講師時代、学生が選ぶ「思い出に残る教授」賞にも選ばれた北川氏の「アクティブ・ラーニング」を実践する授業となりました。1542～1642年の日本と世界の歴史上の出来事を考察し、1分間のプレゼンテーションにまとめていく体験を学生に提供。自らもステージを下りて、学生たちと直接言葉を交わし、「歴史をプリズムとして考える」「日本史は世界史の一部」と参加学生の歴史認識を大きく変え、歴史を様々な角度から読み解くことで、世界の中のニッポンの「現在」と「未来」を柔軟に考えることの重要性を伝えました。

3)講師:ロバート・キャンベル氏(日本文学者)

テーマ:「楽を問う～閉塞を打破する思考とは」

沢庵和尚の随筆や、江戸時代の歌人、橘曙覧(たちばなのあけみ)の『独楽吟』を題材にした授業。キャンベル氏は「江戸や明治の人たちは、学問や、仕事や、政に対して、必ず『楽』もあれば『苦』もあり、絶えず循環しているものの中に自分達は生きている。絶対的な成長、絶対的な地位には幸福を見出しておらず、苦も楽も絶えず循環する中で、自分をコントロールし、いかに次の苦しみを軽減できるかが基本的な発想になっている。今、世界で進んでいるグローバル化は『苦しい』か『楽しい』か、を明確に二分する。この対極にある『苦楽は表裏一体』という日本人固有の考え方が、現在の閉塞状況を打破する生き方のヒントとなる」と語り、日本文学から『日本の立ち位置』を学ぶ授業となりました。



参加学生たちは熱心にメモをとり、「ものすごく刺激になった」「勇気付けられた」「一見共通点のない講師たちの言葉に重なるところがあった」などの感想が集まりました。また、「10年後の世界をあとと言わせるのは日本の若者だ。」「未来は自分で変えられる」など授業後に Twitter、facebook でポジティブな意見が投稿されました。

今年度の新しい試みとして、東京では「大学生委員会」を組織し、学生に自ら運営協力をしてもらう、現役大学生である女優の宮崎香蓮、南沢奈央が授業に参加するなど、ターゲットである大学生の目線での企画になるように試みました。

今回の内容は11月5日(月)よりYouTubeでダイジェスト版映像を公開、番組、ポッドキャスト配信の予告を行っている。11日(日)には、FM フェスティバル未来授業のプレスペシャルとして、番組総合司会の脳科学者・茂木健一郎、宮崎香蓮、大学生委員会メンバーの出演での特別番組を放送し、FM フェスティバル特別番組への聴取喚起を図りました。

尚、この模様は11月23日(祝・金)15:00~18:00、11月24日(土)22:00~22:55にJFN38局フルネットで放送いたします。



【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

■補足だが、370名を超える大学生の参加というのは、応募数ではなく、会場のキャパシティいっぱいまで学生が集まったという意味だ。

今回、特に京都大学の学生の意識が高く、先生の発言にどんどん絡んでいく場面も生まれるなど、いい意味で丁々発止となった。その様子はポッドキャストで動画も放送後に配信する。

○会場で盛り上がっている感じがするが、実際の放送も若い人たちが聴いてくれるといいと思う。イベントの成功だけでなく、番組ソフトとしての価値も重要だ。

○テーマも取り組みも非常に興味深い。

議題2: 番組試聴 (約 20 分)

【番組名】 日本郵政グループ ゆうちよ presents 「ジャパモン〜JPN47〜」
パーソナリティ: 小山薫堂、梅田彩佳 (AKB48)
ゲスト: 倉本聰

【放送日時】 ①2012年10月21日(日) 13:00~13:55 *全国37局ネット

【番組概要】

番組「ジャパモン」には、「日本の物」「日本の者」、この両方に光をあて、日本の価値あるものをすくい上げたいという思いが込められています。47都道府県の「いい物(モン)」「いい者(モン)」を発見し、それらを世の中にシェアし、それぞれの土地・人々にエールを贈り、ニッポンを元気にすることを目指しています。

番組では、毎回ゲストにいらした方に合わせて、様々なコーナーを展開しています。ゲストの故郷で「常識」となっている人やモノ、現象をどこまで知っているかを測る『ご当地ジャパモン』、ゲストの方に「標準語にしたい地元の方言」を教えてください『方言100選〜ミライの標準語〜』、番組側から、ゲストの個性に合わせて、おすすめの都道府県や名産品をプレゼンテーションする『ジャパモンブランドストーリー』など。さらに全国のリスナーから寄せられた貴重な情報も紹介していきます。

2012年10月から始まったこの番組、本日お聴き頂くのは、番組を開始して第3回目。北海道在住の脚本家・倉本聰氏をゲストにお迎えした回です。

前半では、倉本氏から北海道の魅力をひき出し、後半では、倉本氏が長年持ち続けていた、ある「お悩み」を解決する、日本の名産品をご紹介します。

今後は、その地域の価値や、素晴らしい人・物を発掘できるような取り組みとして、各地域と連携し、『ジャパモンブランド』と銘打った逸品を、共同で販売するなどの形でシェアしていくことも視野に入れております。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見 / 「■」社側説明)

○楽しく聞かせてもらった。倉本さんのくつろいだ話を聴く機会はあまりない。雑誌の世界でも伝統的に東京生まれの人が活躍してきたが、今はむしろ地方出身であった方が面白い話が引き出せるのではないかと感じた。梅田さんの進行もすごく上手で、しっかりしており、AKB って捨てたもんじゃないなと思った。小山さん自身が、地域活性という役所的な仕事を、楽しそうにいろんな人を巻き込んでやっていることに非常に期待する。長く続けていると何か結実するかもしれない。プレゼント応募がハガキ受付という演出も良い。ただ、BGM が日本らしくない部分もあり、なぜ爪切りの話のバックがクラシックなのか、という点は不思議に思った。

○番組の趣旨としては面白いと思うので、長く続けばいいと思う。

女性の方はいまいち口がこもっているような印象があり、これからずっとレギュラーでやるなら少し問題があるかと思った。「お腹が出てきて足の爪が切りづらい」という話に共感して面白かった。

○スムーズに聞かせていただいた。さすが小山薫堂さんでソツがない。倉本さんのような大物が出ると聴く側が引いた感じになりがちだが、AKB のあつけらんとした感じが悪くなかった。職業は関係なく、県民性を大事にしたゲスト選定ということなので、今後のゲストによって番組の魅力が作られていくと思う。ただ、オープニングのナレーションが暗いと思った。

テレビでも県民ショーは人気があるが、日本全国は意外と知らないものだという発見があり、楽しいものなので、方向的にも大変良い番組だと思う。

○非常に面白いアイデア。地方をしっかりと見直そうという機運はこれから大事になっていく。明治維新以降、中央集権化しているが、今後地方への流れを作るアイデアだ。倉本さんのお話も興味深かった。かつ、ゲストのお悩みの解決策を、日本全土から拾ってくる仕掛けが面白い。今回出た「巻き爪」も、個人的な悩みであると同時にリスナーの共感も得るであろう普遍性を持っているところも非常に面白かったと思う。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「JOG LIS RUN GIRLS SUNDAY」
11月25日(日)6:00～7:30放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会を、12月4日(火)に開催することを決めた。